

<学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）>

1. 国際社会で通用する教養とコミュニケーション能力を持つ。
2. ファッションの基本的知識と技術を学び、当該分野で自立できる能力がある。
3. ファッションに関わる知識や技術を深化させながら企画開発戦略などの構想力を持つ。
4. ファッションに関わる国際化、情報化などの変化に対応し、主体的に課題に取り組むことができる。

<教育課程の編成の方針（カリキュラム・ポリシー）>

1. 国際社会で通用する教養（汎用的能力）を養う課程
 - ・「基礎科目」に、4年間を通じた学修の基礎となる教養科目と語学科目を配置する。
 - 「比較文化論」「フィールドワーク入門」「メディア概論」「情報リテラシー」などを通じて、職業人としての倫理や生涯にわたり自らの資質を向上させることにつながる人文・社会・自然科学の基本的視点・考え方及びリテラシーを身につける。
 - ・1年次より4年次に至るまで、各学年・学期に演習科目を配置し、問題意識を高め主体性を養う。演習科目の担当教員は学生の専門的な学修の助言と支援を行い、学修の過程と行動を整える。1年次等に配置する「基礎ゼミ」では、大学への適応及び学修スキルの修得、将来に向けた学びの計画づくりに取り組む初年次教育並びにキャリア教育を行い、社会的及び職業的自立をはかるための必要な基礎力を養う。
2. コミュニケーション能力（汎用的能力）を養う課程
 - ・国内外の人と積極的にコミュニケーションをとる能力を、語学科目などを通じて養成する。授業では、課題発表や集団討論の機会を可能な限り設ける。事前事後学修の課題を充実させるとともに、定期試験や外部試験などで習熟度の確認と評価を行う。
 - ・2年次以降の「職業専門科目」や「展開科目」では、専門分野の内容を英語などで伝えることを求める科目を配置し、実用的なコミュニケーション能力を養成する。学外学修と関連して、専門分野を展開するための実践的なコミュニケーション能力を養成する。
 - ・学修成果として、アドミッション・ポリシーで求める高校卒業程度の英語力をもつ学生の能力を、CEFRなどの基準において数段階ほど高めることを目標にする。
3. 職業分野の基本的知識と技術（基本的技術）を養う課程
 - ・ファッション産業の専門知識や技術を、「職業専門科目」の「デザイン科目群」及び「ビジネス科目群」を通じて体系的に養成する。ファッションデザインや被服、ファッションビジネスや経済に関する概説科目を通じて基礎理論を学ぶ。実習科目や専門的な講義を通じて、専門職業分野の実践力を身につける。
 - ・実践力の養成のみならず、当該産業の各職種を包括し当該産業分野全般に精通するための人文・社会などの一定の幅を持つ分野の理論的知識を「ファッション論科目群」や「メディア科目群」の科目を通じて学ぶ。「ファッションとは何か」「多様な装いの文化」「メディア」というキーワードを手助けに、ファッション産業を読み解くための歴史性や同時代性、媒介などの観点や視点について学ぶ。
4. 専門知識・技術を深化させ、展開する力（知識・理解）を養う課程
 - ・ファッション産業の専門に関連する他分野の応用的な能力であって、情報化や国際化に対応した企画や構想な

どの創造的な展開力を養成するための科目を「展開科目」に配置する。主に、「発信力科目群」を通じて、「環境」「地域」「デジタルテクノロジー」などのキーワードを手助けに、各分野における理論と具体的な応用について理解を深める。

5. 国際化・情報化等、変化への対応力（態度・志向性）を養う学外学修課程

・3年次までに修得した知識や技術を、「世界における日本」「地域における当該産業」といった地域的な枠組み、又は国際的な枠組みのなかで実践的に問い鍛える。「職業専門科目」及び「展開科目」の臨地実習及び演習を通じて、自らの問題意識に応えるための能動的な力を修得する。

・実習前には「フィールドワーク入門」や演習を通じて、学外学修に必要な視点や能力を学ぶ。実習先は、学業成績及び本人の希望、計画書による書類審査と担当教職員との面談を通じて、2年後期に決定する。

・実習前に取得すべき必修の単位が修得できるか到達確認試験などを用いて確認する。不合格の者には補習課題や再試験を課し、実習先決定までに合格を求める。実習評価は、担当教員が巡回のうえ、所定の臨地実務実習の基準に沿って行う。

6. 総合力（態度・志向性）を養う課程

・4年間の学修の総合的な取り組みとして全員が「卒業制作・研究」とその「演習」を履修する。担当教員の指導のもとで専門的な演習を受け、意見の形成と発表、討論やプレゼンテーションの能力、自主性と協調性の力を修得する。学修成果として「卒業制作・研究」を発表し、担当教員による判定に合格することで卒業を目指す。

7. 学修成果の評価の在り方

・学位授与の方針に掲げる能力、資質及び必要単位の修得状況を把握し、卒業判定をする。

基礎力、専門性、展開力、総合力を養成することを目指し体系的に配置した各科目を、配当年次にしたがって履修し、卒業要件の基準をみたく単位数を取得することを求める。各科目の学修方法・学修過程、学修成果の評価の在り方は、評価の客観性を担保し、あらかじめシラバス等で示す。各科目は、シラバスに記された方法と基準に基づき評価し可否を判定する。成績は、学期の所定の時期に開示する。学生の学びの過程と評価は、記録して教育課程の見直しや自己点検、カリキュラムの充実や教育開発にいかす。

<入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）>

1. 多様な地域文化と教養を学び、それを基底に、国際的視野のもとで新しいファッションの価値を創造するという目標に挑戦する人を受け入れる。
2. ファッションの学習に強い興味と意欲をもつ人を受け入れる。
3. 積極的に国内外に発信する意欲のある人を受け入れる。
4. 幅広い分野の教育課程の修了者や社会人、各国留学生など多様な背景や経験をもつ人を受け入れる。

ファッションクリエイション学科

学科の特徴（学則）：

国際ファッション学部ファッションクリエイション学科は、多様な生活意識や美意識について、ファッションを通じて再現し、特に日本の伝統的技術や知識の継承からファッション知財の創出を目指す。同時に、写真、映像、

新しいメディア等を使い効率的かつ効果的な情報発信体制を構築する。これにより実践的で創造的な国内外に発信能力のある人材の育成をする。

育成する人材像：

国内外のファッション産業の製造・卸分野における、商品企画、開発（総合職）

国内外のファッション産業の小売分野における、販売企画、営業（総合職）

他業種におけるファッションに関連する分野の開拓（総合職、独立）

3 ポリシー：

<学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）>

1. 職業人として必要な国際社会で通用する教養とコミュニケーション能力を持つ。
2. ファッションクリエイションにおいて必要とされる基本的な理解と技術を持つ。
3. 国内外の文化社会芸術的知識と新たなメディアテクノロジーへの理解を深めている。
4. 学修した専門的知識や技術への理解を深化させながらファッションクリエイション分野で生じている潜在的課題を主体的に発見し、課題解決に向けて具体的な提案及び判断を試みることができる。

<教育課程の編成の方針（カリキュラム・ポリシー）>

1. 基礎力

- ・「基礎科目」に、4年間を通じた学修の基礎となる教養科目と語学科目を配置する。「比較文化論」「フィールドワーク入門」「メディア概論」「情報リテラシー」などを通じて、職業人としての倫理や生涯にわたり自らの資質を向上させることにつながる人文・社会・自然科学の基本的視点・考え方及びリテラシーを身につける。
- ・1年次より4年次に至るまで、各学年・学期に演習科目を配置し、問題意識を高め主体性を養う。演習科目の担当教員は学生の専門的な学修の助言と支援を行い、学修の過程と行動を整える。1年次等に配置する「基礎ゼミ」では、大学への適応及び学修スキルの修得、将来に向けた学びの計画づくりに取り組む初年次教育並びにキャリア教育を行い、社会的及び職業的自立をはかるための必要な基礎力を養う。

2. コミュニケーション能力

- ・国内外の人と積極的にコミュニケーションをとる能力を、語学科目などを通じて養成する。授業は、課題発表や集団討論の機会を可能な限り設ける。事前事後学修の課題を充実させるとともに、定期試験や外部試験などで習熟度の確認と評価を行う。
- ・2年次以降の「職業専門科目」や「展開科目」では、クリエイション分野のコンセプトなどの内容を英語で伝えることを求める科目を配置し、実用的な能力を養成する。学外学修と関連して、実践的なコミュニケーション能力を養成する。
- ・学修成果として、アドミッション・ポリシーで求める高校卒業程度の英語力をもつ学生の能力を、CEFRなどの基準において数段階ほど高めることを目標にする。

3. 専門性

- ・ファッションクリエイション分野の専門知識や技術を、「職業専門科目」の「デザイン科目群」を通じて体系的に養成する。ファッションデザインや被服に関する概説科目を通じて基礎理論を学ぶ。実習科目や専門的な講義

を通じて、専門職業分野の実践力を身につける。

・実践力のみならず、当該産業の各職種を包括し当該産業分野全般に精通するための人文・社会などの一定の幅を持つ分野の理論的知識を「ファッション論科目群」や「メディア科目群」の科目を通じて学ぶ。「ファッションとは何か」「多様な装いの文化」「メディア」というキーワードを手助けに、ファッション産業を読み解くための歴史性や同時代性、媒介などの観点や視点について学ぶ。

4. 展開力

・ファッション産業の専門に関連する他分野の応用的な能力であって、情報化や国際化に対応した企画や構想などの創造的な展開力を養成するための科目を「展開科目」に配置する。主に、「発信力科目群」を通じて、「環境」「地域」「デジタルテクノロジー」などのキーワードを手助けに、各分野における理論と具体的な応用について理解を深める。

5. 学外学修

・3年次までに修得した知識や技術を、「世界における日本」「地域における当該産業」といった地域的な枠組み、又は国際的な枠組みのなかで実践的に問い鍛える。「職業専門科目」及び「展開科目」の臨地実習及び演習を通じて、自らの問題意識に応えるための能動的な力を修得する。

・実習前には「フィールドワーク入門」や演習を通じて、学外学修に必要な視点や能力を学ぶ。実習先は、学業成績及び本人の希望、計画書による書類審査と担当教職員との面談を通じて、2年後期に決定する。

・実習前に取得すべき必修の単位が修得できるか到達確認試験などを用いて確認する。不合格の者には補習課題や再試験を課し、実習先決定までに合格を求める。実習評価は、担当教員が巡回のうえ、所定の臨地実務実習の基準に沿って行う。

6. 総合力

・4年間の学修の総合的な取り組みとして全員が「卒業制作・研究」とその「演習」を履修する。担当教員の指導のもとで専門的な演習を受け、意見の形成と発表、討論やプレゼンテーションの能力、自主性と協調性の力を修得する。学修成果として「卒業制作・研究」を発表し、担当教員による判定に合格することで卒業を目指す。

7. 学修成果の評価

・学位授与の方針に掲げる能力、資質及び必要単位の修得状況を把握し、卒業判定をする。基礎力、専門性、展開力、総合力を養成することを目指し体系的に配置した各科目を、配当年次にしたが履修し、卒業要件の基準をみたす単位数を取得することを求める。各科目の学修方法・学修過程、学修成果の評価の在り方は、評価の客観性を担保しあらかじめシラバス等で示す。各科目は、シラバスに記された方法と基準に基づき評価し合否を判定する。成績は、学期の所定の時期に開示する。学生の学びの過程と評価は、記録して教育課程の見直しや自己点検、カリキュラムの充実や教育開発にいかす。

<入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）>

1. 多様な地域文化と教養を学び、それを基底に、国際的視野のもとで新しいファッションの価値を創造するという目標に挑戦する人を受け入れる。
2. ファッションの学習に強い興味と意欲をもつ人を受け入れる。
3. 積極的に国内外に発信する意欲のある人を受け入れる。

4. 幅広い分野の教育課程の修了者や社会人、各国留学生など多様な背景や経験をもつ人を受け入れる。

ファッションビジネス学科

学科の特徴（学則）：

国際ファッション学部ファッションビジネス学科は、多様な生活意識や美意識に基づき、ものの美的な価値に理解を示しつつ、国際競争力のある新しいファッションブランドの創出や制作物の販売網の開拓を目指す。同時に、写真、映像、新しいメディア等を使い効率的かつ効果的な情報発信体制を構築する。これにより、実践的で創造的な国内外に発信能力のある人材の育成をする。

育成する人材像：

国内外のファッション産業の製造・卸分野及び小売分野における、販売企画戦略、営業、広告、プロデュース（総合職）

国内外のファッション産業の分析職、ジャーナリスト（総合職）

他業種におけるファッションに関連する分野の開拓（総合職、独立）

3 ポリシー：

<学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）>

1. 職業人として必要な国際社会で通用する教養とコミュニケーション能力を持つ。
2. ファッションビジネスにおいて必要とされる管理運営の理解と基本的技術を持つ。
3. 国内外の文化社会芸術的知識と新たなテクノロジーへの理解を深めている。
4. 学修した専門的知識や技術への理解を深化させながらファッションビジネス分野で生じている潜在的課題を主体的に発見し、課題解決に向けて具体的な提案及び判断を試みることができる。

<教育課程の編成の方針（カリキュラム・ポリシー）>

1. 基礎力

・「基礎科目」に、4年間を通じた学修の基礎となる教養科目と語学科目を配置する。

「比較文化論」「フィールドワーク入門」「メディア概論」「情報リテラシー」などを通じて、職業人としての倫理や生涯にわたり自らの資質を向上させることにつながる人文・社会・自然科学の基本的視点・考え方及びリテラシーを身につける。

・1年次より4年次に至るまで、各学年・学期に演習科目を配置し、問題意識を高め主体性を養う。演習科目の担当教員は学生の専門的な学修の助言と支援を行い、学修の過程と行動を整える。1年次等に配置する「基礎ゼミ」では、大学への適応及び学修スキルの修得、将来に向けた学びの計画づくりに取り組む初年次教育並びにキャリア教育を行い、社会的及び職業的自立をはかるための必要な基礎力を養う。

2. コミュニケーション能力

国内外の人と積極的にコミュニケーションをとる能力を、語学科目などを通じて養成する。授業は、課題発表や集団討論の機会を可能な限り設ける。事前事後学修の課題を充実させるとともに、定期試験や外部試験などで習熟度の確認と評価を行う。

・2年次以降の「職業専門科目」や「展開科目」では、ビジネス分野の構想や商談内容を英語で伝えることを求める科目を配置し、実用的な能力を養成する。学外学修と関連して、実践的なコミュニケーション能力を養成する。

・学修成果として、アドミッション・ポリシーで求める高校卒業程度の英語力をもつ学生の能力を、CEFRなどの基準において数段階ほど高めることを目標にする。

3. 専門性

・ファッションビジネス分野の専門知識や技術を、「職業専門科目」の「ビジネス科目群」を通じて体系的に養成する。ファッションビジネスや経済に関する概説科目を通じて基礎理論を学ぶ。実習科目や専門的な講義を通じて、専門職業分野の実践力を身につける。

・実践力のみならず、当該産業の各職種を包括し当該産業分野全般に精通するための人文・社会などの一定の幅を持つ分野の理論的知識を「ファッション論科目群」や「メディア科目群」の科目を通じて学ぶ。「ファッションとは何か」「多様な装いの文化」「メディア」というキーワードを手助けに、ファッション産業を読み解くための歴史性や同時代性、媒介などの観点や視点について学ぶ。

4. 展開力

・ファッション産業の専門に関連する他分野の応用的な能力であって、情報化や国際化に対応した企画や構想などの創造的な展開力を養成するための科目を「展開科目」に配置する。主に、「発信力科目群」を通じて、「環境」「地域」「デジタルテクノロジー」などのキーワードを手助けに、各分野における理論と具体的な応用について理解を深める。

5. 学外学修

・3年次までに修得した知識や技術を、「世界における日本」「地域における当該産業」といった地域的な枠組み、又は国際的な枠組みのなかで実践的に問い鍛える。「職業専門科目」及び「展開科目」の臨地実習及び演習を通じて、自らの問題意識に応えるための能動的な力を修得する。

・実習前には「フィールドワーク入門」や演習を通じて、学外学修に必要な視点や能力を学ぶ。実習先は、学業成績及び本人の希望、計画書による書類審査と担当教職員との面談を通じて、2年後期に決定する。

・実習前に取得すべき必修の単位が修得できるか到達確認試験などを用いて確認する。不合格の者には補習課題や再試験を課し、実習先決定までに合格を求める。実習評価は、担当教員が巡回のうえ、所定の臨地実務実習の基準に沿って行う。

6. 総合力

・4年間の学修の総合的な取り組みとして全員が「卒業制作・研究」とその「演習」を履修する。担当教員の指導のもとで専門的な演習を受け、意見の形成と発表、討論やプレゼンテーションの能力、自主性と協調性の力を修得する。学修成果として「卒業制作・研究」を発表し、担当教員による判定に合格することで卒業を目指す。

7. 学修成果の評価

・学位授与の方針に掲げる能力、資質及び必要単位の修得状況を把握し、卒業判定をする。基礎力、専門性、展開力、総合力を養成することを目指し体系的に配置した各科目を、配当年次にしたがって履修し、卒業要件の基準をみたす単位数を取得することを求める。各科目の学修方法・学修過程、学修成果の評価の在り方は、評価の客

観性を担保しあらかじめシラバス等で示す。各科目は、シラバスに記された方法と基準に基づき評価し可否を判定する。成績は、学期の所定の時期に開示する。学生の学びの過程と評価は、記録して教育課程の見直しや自己点検、カリキュラムの充実や教育開発にいかす。

<入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）>

1. 多様な地域文化と教養を学び、それを基底に、国際的視野のもとで新しいファッションの価値を創造するという目標に挑戦する人を受け入れる。
2. ファッションの学習に強い興味と意欲をもつ人を受け入れる。
3. 積極的に国内外に発信する意欲のある人を受け入れる。
4. 幅広い分野の教育課程の修了者や社会人、各国留学生など多様な背景や経験をもつ人を受け入れる。

大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科

学科の特徴（学則）：

国際ファッション学部大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科は、多様な生活意識や美意識を理解し、特に関西を中心に地域の多様な伝統的技術や知識の継承に基づいたファッション知財を創出しつつ、その運営基盤の創出を目指す。同時に、写真、映像、新しいメディア等を使い効率的かつ効果的な情報発信体制を構築する。これにより、創作と運営を総合的に担い、国内外に発信能力のある人材を育成する。

育成する人材像：

関西地域の特色や地域の知財を理解しつつ以下の仕事を行う人材

国内外のファッション産業の製造・卸分野及び小売分野において、販売企画戦略、営業、広告、プロデュース（総合職）

国内外のファッション産業の分析職、ジャーナリスト（総合職）

他業種におけるファッションに関連する分野の開拓（総合職、独立）

3 ポリシー：

<学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）>

1. 職業人として必要な国際社会で通用する教養とコミュニケーション能力を持つ。
2. 関西地域に根付いた経済社会文化的な背景を理解し、ファッション産業で必要とされる基本的知識と技術を持つ。
3. 国内外の経済社会文化芸術的知識と新たなテクノロジーへの理解を深めている。
4. 学修した専門的知識や技術への理解を深化させながら、関西地域におけるファッション分野で生じている潜在的課題を主体的に発見し、課題解決に向けて具体的な提案及び判断を試みることができる。

<教育課程の編成の方針（カリキュラム・ポリシー）>

1. 基礎力

・「基礎科目」に、4年間を通じた学修の基礎となる教養科目と語学科目を配置する。

「比較文化論」「フィールドワーク入門」「メディア概論」「情報リテラシー」などを通じて、職業人としての倫理や生涯にわたり自らの資質を向上させることにつながる人文・社会・自然科学の基本的視点・考え方やリテラ

シーを身につける。

・1年次より4年次に至るまで、各学年・学期に演習科目を配置し、問題意識を高め主体性を養う。演習科目の担当教員は学生の専門的な学修の助言と支援を行い、学修の過程と行動を整える。1年次等に配置する「基礎ゼミ」では、大学への適応及び学修スキルの修得、将来に向けた学びの計画づくりに取り組む初年次教育並びにキャリア教育を行い、社会的及び職業的自立をはかるための必要な基礎力を養う。

2. コミュニケーション能力

・国内外の人と積極的にコミュニケーションをとる能力を、語学科目などを通じて養成する。授業は、課題発表や集団討論の機会を可能な限り設ける。事前事後学修の課題を充実させるとともに、定期試験や外部試験などで習熟度の確認と評価を行う。

・2年次以降の「職業専門科目」や「展開科目」では、クリエイション分野とビジネス分野を総合的に理解し、学科の位置する関西地域のファッション産業やコンセプトなどの内容を英語で伝えることを求める科目を配置し、実用的な能力を養成する。学外学修と関連して、実践的なコミュニケーション能力を養成する。

・学修成果として、アドミッション・ポリシーで求める高校卒業程度の英語力をもつ学生の能力を、CEFRなどの基準において数段階ほど高めることを目標にする。

3. 専門性

・ファッションのクリエイション及びビジネス分野、及びそれらが位置する関西地域のファッション産業についての専門知識や技術を、「職業専門科目」の「デザイン科目群」及び「ビジネス科目群」を通じて体系的に養成する。ファッションデザインや被服、ファッションビジネスや経済に関する概説科目を通じて基礎理論を学ぶ。実習科目や専門的な講義を通じて、専門職業分野の実践力を身につける。

・実践力のみならず、当該産業の各職種を包括し当該産業分野全般に精通するための人文・社会などの一定の幅を持つ分野の理論的知識を「ファッション論科目群」や「メディア科目群」の科目を通じて学ぶ。「ファッションとは何か」「多様な装いの文化」「メディア」というキーワードを手助けに、ファッション産業を読み解くための歴史性や同時代性、媒介などの観点や視点について学ぶ。

4. 展開力

・ファッション産業の専門に関連する他分野の応用的な能力であって、情報化や国際化に対応した企画や構想などの創造的な展開力を養成するための科目を「展開科目」に配置する。主に、「発信力科目群」を通じて、「環境」「地域」「デジタルテクノロジー」などのキーワードを手助けに、各分野における理論と具体的な応用について理解を深める。

5. 学外学修

・3年次までに修得した知識や技術を、「世界における日本」「関西地域における当該産業」といった地域的な枠組み、又は国際的な枠組みのなかで実践的に問い鍛える。「職業専門科目」及び「展開科目」の臨地実習及び演習を通じて、自らの問題意識に応えるための能動的な力を修得する。

・実習前には「フィールドワーク入門」や演習を通じて、学外学修に必要な視点や能力を学ぶ。実習先は、学業成績及び本人の希望、計画書による書類審査と担当教職員との面談を通じて、2年後期に決定する。

・実習前に取得すべき必修の単位が修得できるか到達確認試験などを用いて確認する。不合格の者には補習課題や再試験を課し、実習先決定までに合格を求める。実習評価は、担当教員が巡回のうえ、所定の臨地実務実習の

基準に沿って行う。

6. 総合力

・4年間の学修の総合的な取り組みとして全員が「卒業制作・研究」とその「演習」を履修する。担当教員の指導のもとで専門的な演習を受け、意見の形成と発表、討論やプレゼンテーションの能力、自主性と協調性の力を修得する。学修成果として「卒業制作・研究」を発表し、担当教員による判定に合格することで卒業を目指す。

7. 学修成果の評価

・学位授与の方針に掲げる能力、資質及び必要単位の修得状況を把握し、卒業判定をする。基礎力、専門性、展開力、総合力を養成することを目指し体系的に配置した各科目を、配当年次にしたが履修し、卒業要件の基準をみたく単位数を取得することを求める。各科目の学修方法・学修過程、学修成果の評価の在り方は、評価の客観性を担保しあらかじめシラバス等で示す。各科目は、シラバスに記された方法と基準に基づき評価し可否を判定する。成績は、学期の所定の時期に開示する。学生の学びの過程と評価は、記録して教育課程の見直しや自己点検、カリキュラムの充実や教育開発にいかす。

<入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）>

1. 多様な地域文化と教養を学び、それを基底に、国際的視野のもとで新しいファッションの価値を創造するという目標に挑戦する人を受け入れる。
2. ファッションの学習に強い興味と意欲をもつ人を受け入れる。
3. 積極的に国内外に発信する意欲のある人を受け入れる。
4. 幅広い分野の教育課程の修了者や社会人、各国留学生など多様な背景や経験をもつ人を受け入れる。

名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科

学科の特徴（学則）：

国際ファッション学部名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科は、多様な生活意識や美意識を理解し、特に中部、東海を中心に地域の多様な伝統的技術や知識の継承に基づいたファッション知財を創出しつつ、その運営基盤の創出を目指す。同時に、写真、映像、新しいメディア等を使い効率的かつ効果的な情報発信体制を構築する。これにより、創作と運営を総合的に担い、国内外に発信能力のある人材を育成する。

育成する人材像：

名古屋地域の特色や地域の知財を理解しつつ以下の仕事を行う人材
国内外のファッション産業の製造・卸分野における、商品企画、開発（総合職）
国内外のファッション産業の小売分野における、販売企画、営業（総合職）
他業種におけるファッションに関連する分野の開拓（総合職、独立）

3 ポリシー：

<学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）>

1. 職業人として必要な国際社会で通用する教養とコミュニケーション能力を持つ。

2. 名古屋地域に根付いた経済社会文化的な背景を理解し、ファッション産業で必要とされる基本的知識と技術を持つ。
3. 国内外の経済社会文化芸術的知識と新たなテクノロジーへの理解を深めている。
4. 学修した専門的知識や技術への理解を深化させながら、名古屋地域におけるファッション分野で生じている潜在的課題を主体的に発見し、課題解決に向けて具体的な提案及び判断を試みることができる。

<教育課程の編成の方針（カリキュラム・ポリシー）>

1. 基礎力

- ・「基礎科目」に、4年間を通じた学修の基礎となる教養科目と語学科目を配置する。
「比較文化論」「フィールドワーク入門」「メディア概論」「情報リテラシー」などを通じて、職業人としての倫理や生涯にわたり自らの資質を向上させることにつながる人文・社会・自然科学の基本的視点・考え方及びリテラシーを身につける。
- ・1年次より4年次に至るまで、各学年・学期に演習科目を配置し、問題意識を高め主体性を養う。演習科目の担当教員は学生の専門的な学修の助言と支援を行い、学修の過程と行動を整える。1年次等に配置する「基礎ゼミ」では、大学への適応及び学修スキルの修得、将来に向けた学びの計画づくりに取り組む初年次教育並びにキャリア教育を行い、社会的及び職業的自立をはかるための必要な基礎力を養う。

2. コミュニケーション能力

- ・国内外の人と積極的にコミュニケーションをとる能力を、語学科目などを通じて養成する。授業は、課題発表や集団討論の機会を可能な限り設ける。事前事後学修の課題を充実させるとともに、定期試験や外部試験などで習熟度の確認と評価を行う。
- ・2年次以降の「職業専門科目」や「展開科目」では、クリエイション分野とビジネス分野を総合的に理解し、学科の位置する名古屋地域のファッション産業やコンセプトなどの内容を英語で伝えることを求める科目を配置し、実用的な能力を養成する。学外学修と関連して、実践的なコミュニケーション能力を養成する。
- ・学修成果として、アドミッション・ポリシーで求める高校卒業程度の英語力をもつ学生の能力を、CEFRなどの基準において数段階ほど高めることを目標にする。

3. 専門性

- ・ファッションのクリエイション及びビジネス分野、及びそれらが位置する名古屋地域のファッション産業についての専門知識や技術を、「職業専門科目」の「デザイン科目群」及び「ビジネス科目群」を通じて体系的に養成する。ファッションデザインや被服、ファッションビジネスや経済に関する概説科目を通じて基礎理論を学ぶ。実習科目や専門的な講義を通じて、専門職業分野の実践力を身につける。
- ・実践力のみならず、当該産業の各職種を包括し当該産業分野全般に精通するための人文・社会などの一定の幅を持つ分野の理論的知識を「ファッション論科目群」や「メディア科目群」の科目を通じて学ぶ。「ファッションとは何か」「多様な装いの文化」「メディア」というキーワードを手助けに、ファッション産業を読み解くための歴史性や同時代性、媒介などの観点や視点について学ぶ。

4. 展開力

- ・ファッション産業の専門に関連する他分野の応用的な能力であって、情報化や国際化に対応した企画や構想などの創造的な展開力を養成するための科目を「展開科目」に配置する。主に、「発信力科目群」を通じて、「環境

「地域」「デジタルテクノロジー」などのキーワードを手助けに、各分野における理論と具体的な応用について理解を深める。

5. 学外学修

・3年次までに修得した知識や技術を、「世界における日本」「名古屋地域における当該産業」といった地域的な枠組み、又は国際的な枠組みのなかで実践的に問い鍛える。「職業専門科目」及び「展開科目」の臨地実習及び演習を通じて、自らの問題意識に応えるための能動的な力を修得する。

・実習前には「フィールドワーク入門」や演習を通じて、学外学修に必要な視点や能力を学ぶ。実習先は、学業成績及び本人の希望、計画書による書類審査と担当教職員との面談を通じて、2年後期に決定する。

・実習前に取得すべき必修の単位が修得できるか到達確認試験などを用いて確認する。不合格の者には補習課題や再試験を課し、実習先決定までに合格を求める。実習評価は、担当教員が巡回のうえ、所定の臨地実務実習の基準に沿って行う。

6. 総合力

・4年間の学修の総合的な取り組みとして全員が「卒業制作・研究」とその「演習」を履修する。担当教員の指導のもとで専門的な演習を受け、意見の形成と発表、討論やプレゼンテーションの能力、自主性と協調性の力を修得する。学修成果として「卒業制作・研究」を発表し、担当教員による判定に合格することで卒業を目指す。

7. 学修成果の評価

・学位授与の方針に掲げる能力、資質及び必要単位の修得状況を把握し、卒業判定をする。基礎力、専門性、展開力、総合力を養成することを目指し体系的に配置した各科目を、配当年次にしたが履修し、卒業要件の基準をみたす単位数を取得することを求める。各科目の学修方法・学修過程、学修成果の評価の在り方は、評価の客観性を担保しあらかじめシラバス等で示す。各科目は、シラバスに記された方法と基準に基づき評価し可否を判定する。成績は、学期の所定の時期に開示する。学生の学びの過程と評価は、記録して教育課程の見直しや自己点検、カリキュラムの充実や教育開発にいかす。

<入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）>

1. 多様な地域文化と教養を学び、それを基底に、国際的視野のもとで新しいファッションの価値を創造するという目標に挑戦する人を受け入れる。
2. ファッションの学習に強い興味と意欲をもつ人を受け入れる。
3. 積極的に国内外に発信する意欲のある人を受け入れる。
4. 幅広い分野の教育課程の修了者や社会人、各国留学生など多様な背景や経験をもつ人を受け入れる。